新聞定価 月ぎめ本体価格 3,519円(消費税込み 3,800円) 1部売り(税込み)160円 (第3種郵便物認可)

安心の矢先 津波無情に

3.11 学校の教訓 ④ 福井の教員ら被災地視察

「ここに居れば大丈夫だ」
しかし、無情にも第一波で
下手から家や車が押し寄せ
そして、第二波、第三波が
…
尊い命と全ての財産が海へ
と散った

この言葉が刻まれた「杉ノ下遺族会慰霊碑」は、宮城県気仙沼市の高台に建つ。語り部の小野寺敬子さん(63)は2月21日、被災地視察研修の一行にゆっくりと説明を始めた。

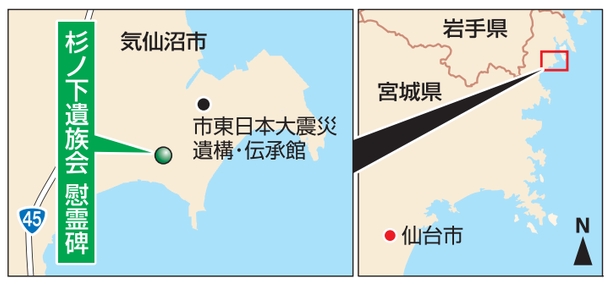
今は「人が住まなくなり、荒野のようになった」杉ノ下地区。震災前には85世帯312人が暮らしていた。3分の1近い93人が津波の犠牲になり「このうち60人は、皆さんがお立ちになっている指定避難場所で亡くなりました」。

地区一帯は明治三陸地震(1896年)や昭和三陸地震(1933年)、チリ地震(60年)の全ての津波に襲われた。

「また三陸沖で大きな地震と津波が起きるだろう」。住民は市と相談し、過去三つの地震で浸水しなかった海抜12㍍の高台を指定避難場所にした。1991年だった。

指定避難先での惨事

指定避難場所に逃げ込み、大勢の住民が津波の犠牲になった高台で話を聞く全国の教職員＝2月21日、宮城県気仙沼市



■■■

「防災意識の高い地区でした」と小野寺さんは語る。年2回、避難訓練を行っていた。仕事などで不在でない限り全員が参加し、隣近所で声を掛け合って高台に逃げる訓練を繰り返した。「ここより安全なところはない」。地区民は思っていた。

地区があるのは海に突き出た岬のような地形。東日本大震災では、津波がぶつかり合い、住民が訓練通りに避難していた高台に到達したのは、想定を超える18㍍の津波だった。「ひとたまりもなかったと思います。高台に逃げ込んだがゆえに、大きな犠牲が出てしまった」

小野寺さんは津波襲来の直前に高台を後にしていた。母が避難したという寺に車で向かうためだった。その途中で地区一帯に津波が迫ってきたことを知った。

語り部をしているのは「忘れないため」。指定避難場所で多くの命が失われた事実を伝えることが「防災につながれば」という願いも強い。慰霊碑の裏側には小野寺さんの言葉が刻まれている。

この悲劇を繰り返すな
大地が揺れたらすぐ逃げろ

■■■

より遠くへ…より高台へ…

■■■

宮城県石巻市では指定避難所だった北上総合支所庁舎が津波の直撃で全壊した。2006年、宮城県沖地震で想定される5・5㍍の津波を考慮し、1㍍高い海抜6・5㍍の場所に新築された。その2階部分が避難所となっており、身を寄せた住民や職員ら57人が14㍍の津波に襲われた。助かったのは3人だけだった。

学校施設が避難所に指定されているケースも多い。同県東松島市の野蒜小では体育館に児童や地区住民が逃げ込んだ。津波は分厚い扉を破壊して館内に流れ込み、水は渦巻いて人々をのみ込んだ。2階ギャラリーに逃れた児童らは惨事を目の当たりにしてしまった。

研修に参加した本川真衣教諭(24)が勤める北海道の網走市中央小も避難所になっているという。「網走には津波は来ない。来ても学校に逃げれば大丈夫と思っている人がほとんど」と感じている。被災地では「想定外」で命が失われた場所がいくつもあり「防災に正解はない。研修で学んだことが多くの人に届くよう熱意を持って語り継いでいきたい」と語った。(近藤洋平)

全線運行を再開したえちぜん鉄道勝山永平寺線＝13日、勝山市の勝山駅

えちぜん鉄 11日ぶり全線再開

勝山・落石衝突 利用者 喜びと不安

えちぜん鉄道は13日、勝山市遅羽町比島を走行中の列車が落石に衝突し脱線した事故で一部区間運休していた勝山永平寺線について、始発から全線運行を再開した。2日の事故発生から11日ぶりに山王―勝山間を列車が走った。

同社によると、線路脇にある落石の破砕作業が進み、運行の安全が確保された。安全対策として、現場周辺の斜面の石に落石検知器を複数設置したほか、事故現場では当面、時速25キロ以下の徐行運転とする。線路脇の石の撤去は今後、同社と市で協議する。

午前5時20分勝山発福井行きの始発以降、通常ダイヤで全線運行した。観光で利用し勝山駅で降車した永浜実里さん(40)＝福岡県＝は「ゆっくりと雪景色を楽しめたので再開はラッキーだった」と喜んだ。福井市内から勝山高へ通っている猪島孔輝さん(17)は「再開したのは良いこと。ただ、また同じことが起きるのではという不安もある」と話した。

事故は2日午前5時25分ごろ発生。勝山発福井行きの始発列車が走行中、斜面から線路付近に落ちていた石に衝突した。以降は山王―勝山間を運休し、福井―山王間で折り返し運転していた。(北川奈々聖)

新1万円の偽札使用疑い

初摘発 プリンター利用か

コンビニで新1万円札の偽札を使ったとして、警視庁捜査2課は13日までに、偽造通貨行使の疑いで、東京都台東区、職業不詳斎藤瑞樹容疑者(27)を逮捕した。捜査2課によると、偽造した新紙幣の使用事件が摘発されるのは全国で初めて。家庭用プリンターを利用したとみて調べる。

逮捕容疑は2月10日、東京都新宿区のコンビニで偽の1万円札を使い、計690円の缶コーヒーとたばこを購入した疑い。「私がやった」と話している。

紙幣に「透かし」がなく、ホログラムが光らないのを不審に思った店員が110番した。自宅からプリンターのほか、偽札とみられる計50枚以上の1万円や5千円の新紙幣が押収された。

都内で2月以降、複数のコンビニやタクシーで偽札が使われる被害があった。逮捕容疑の偽札と同じ「記番号」の紙幣も確認され、斎藤容疑者が関与した疑いがあるとみている。

鹿児島5人殺害 二審も死刑判決

福岡高裁支部

鹿児島県日置市で2018年、親族ら5人を殺害したとして殺人罪などに問われた無職岩倉知広被告(45)の控訴審判決で、福岡高裁宮崎支部は13日、死刑とした20年12月の一審鹿児島地裁裁判員裁判判決を支持し、弁護側の控訴を棄却した。完全責任能力の認定に合理的疑いは生じないとし「落ち度のない5人の命を奪った。死刑はやむを得ない」と結論付けた。

弁護人は最高裁に即日上告したと明らかにした。

控訴審では、一、二審でそれぞれ精神鑑定をした医師2人を証人尋問。平島正道裁判長は判決理由で、二審の医師は重度の統合失調症と診断する一方、妄想に支配され行動が強制されている状態だったとまでは述べていないと指摘した。

包丁を持ち出してきた父親の殺害は正当防衛とした弁護側主張に「父親の行為は祖母を防衛するための行為で、被告が危険を回避することは容易だった」と判断。弁護側が争った父親と祖母への殺意も認めた。

その上で、謝罪や反省の態度を示そうとせず更生の余地に乏しいと非難。「精神障害が犯行の背景にあったとしても影響は軽微」とし、一審に続き死刑を選択した。

あんずちゃん ◀田中しょう▶

越前市ひき逃げ事故 男性4人を書類送検

越前署

昨年8月、越前市の国道8号で同市の女性＝当時(30)＝が4台の車両にはねられて死亡したひき逃げ事故で越前署は13日、道交法違反と自動車運転処罰法違反(過失致死)の疑いで、最初にはねた大型トラックを運転していた同市の男性(46)を書類送検した。

後続車を運転していた福井市の男性(57)、越前市の男性(57)、大阪府守口市の男性(63)については道交法違反の疑いで書類送検した。

女性は昨年8月29日午前1時35分ごろ、交差点の横断歩道で、大型トラックにはねられた。運転手は現場を離れ、約1時間後に戻った。

ALS嘱託殺人 元医師控訴棄却

大阪高裁

京都市で2019年、筋萎縮性側索硬化症(ALS)の患者林優里さん＝当時(51)＝の依頼に応じ殺害したとして嘱託殺人罪などに問われた元医師山本直樹被告(47)の控訴審判決で、大阪高裁(坪井祐子裁判長)は13日、懲役2年6月とした一審京都地裁判決を支持し、弁護側控訴を棄却した。

判決によると、医師大久保愉一被告(46)＝同罪などで懲役18年、上告中＝と共謀し19年11月30日、林さんの自宅マンションで、嘱託を受け胃ろうから薬物を注入。搬送先の病院で死亡させた。

坪井裁判長は判決理由で一審判決同様、山本被告が従属的立場で、犯行について大久保被告との間で「暗黙で意思連絡があった」と認定した。

■無銭宿泊疑いで男を再逮捕

あわら署は13日、詐欺の疑いで兵庫県尼崎市生まれの住所不定、無職徳村司容疑者(46)を再逮捕した。

再逮捕容疑は2月5日から同8日までの間、あわら市内の宿泊施設を利用し、宿泊代金4万2650円を支払わなかった疑い。

同署によると、徳村容疑者はあわら市内の別の宿泊施設での同様の容疑で2月21日に逮捕されていた。